



# 神奈川ネットワーク運動・鎌倉 まちづくりレポート

NO.173

発行 2025年2月10日



**市議 保坂れい子**  
建設常任委員会(委員長)



神奈川ネットは地域政党です 進めよう！市民参加・市民政治

**市議 井上みかこ**  
教育福祉常任委員会

## 生活の課題を政治の場に届け、政治を暮らしに引き寄せる


**私たちが目指し、取り組んできたこと**  
神奈川ネットワーク運動・鎌倉は、ローカルパーティ(地域政党)として、1985年から今日までに計15人の市議と県議を誕生させました。政治に参加する市民の輪を広げ、自治する力を高めることを目指し、カンパ(個人寄付)とボランティアの力で選挙や日常活動を行なうのがモットーです。私たちの実践は、お金のかかる選挙が利権がらみの政治を生み出すことに対する異議申し立てでもあります。

生活実感を持った人が政治に参画することは、自分の住むまちを考える人を増やします。議員誕生のきっかけは、合成洗剤から人と環境に優しい石けんに切り替えることを求める市民運動でした。資源の分別が進んでいなかったごみ処理体制に対し、市民の実践を踏まえた提案を行なって資源化を促し、緑保全の市民活動と連帯して広町緑地や台峯の緑の保全を実現する後押しをしました。学校給食や保育、防災、市民活動支援などの多くの分野で、議員が交替しながら市民と作った政策を引き継いできました。

**実践と見えてきた課題**  
しかし、発足から40年が経ち、社会も女性の生き方も、また選挙のスタイルも大きく変化しました。女性の社会参加が進み、家計を担う女性が増え、カンパとボランティアで政治をするという理念に支えられるだけでは、議員も共に活動する仲間も、次につなぐバトンが重すぎるようになってきました。

日本の経済力の低下を背景に政治の右傾化が進む中であって、ネットはリベラル(「個」を大切にし、人権や多様性を重視)の立ち位置でぶれずにきました。女性の政治参加においては先鞭をつけたと自負していますが、リベラルの再結集に向けては、大ぜいの市民による新しい動きが社会を変えていくことを願い、私たちも市民として発言を続けていきます。

### 多くの行政情報に接する 立場の責任は重い 保坂令子




2008年の9月議会に、携帯電話中継基地局が住民への周知なしに設置されないようにする条例の制定を求める陳情を行いました。陳情採択を受けて条例が作られた際に前向きに関わってくれたネット鎌倉と繋がりができ、2013年の選挙で市議になりました。東日本大震災が大きな契機となって取組みたい分野としては先ず防災があり、議員になる前から取組んでいた情報公開と公文書管理の推進も大事なテーマで、それらを所管する総務常任委員会に所属しました。

2014年度に「公共施設再編計画」が策定され、その翌年度には「老朽化が進む本庁舎を今後どうしていくか」の検討が本格的に始まり、こちらの所管も総務常任委員会でした。この時期に連続9年間総務の委員を務め、市庁舎整備の検討経過をつぶさに見る機会を得たことは、それだけ大きな責任を負ったこととなります。自らの考えを踏まえた情報の発信と議会における発言を通して責任を果たすように努めてきました。

自分自身は「モノ言う市民」でしたが、議員には、声になりにくい声に耳を傾け、その声を代弁することで「参加」につなげる役割があると考えています。

### みんなで子どもを育む社会に 井上三華子




私が議員になった2021年はコロナ禍の真最中で、40年続いてきた神奈川ネットの強みである「手をとりつながり合う顔の見えるネットワークづくり」が弱まり、高齢者だけでなく現役世代も子どもたちも孤立しました。フェイク情報が蔓延し、排外主義的な考えの強まりに、地方議員のあり方にも戸惑いを感じる日々でした。

女性や非正規雇用の人など弱い立場の人ほど困難に直面し、隠れた弱者が増えています。障害者支援や子育て支援は昔と比べたら良くなっている、今の母親は優遇されていると言われることも多いですが、今の時代は自己責任という言葉のもとに格差は広がり、助けあう社会ではなくなっています。

今の子どもたちは、気候危機や平和への脅威といった厳しい世界を生きていかななくてはなりません。次世代へのツケはもう取り返しのつかないところまで来ているということ、私たち大人はもっと真剣に考えるべきではないでしょうか。

### 武蔵野プレイスのような 市民の拠点をつくらう！



**イチ推し！**  
図書館は、個人の「知りたい、学びたい」を支えるだけでなく、市民が共に地域の課題を考え、自治に参画する拠点にもなります。目的を持たないで来訪する人にも開かれ、みんなの居場所であり、出会いの場でもあります。

武蔵野市の武蔵野プレイス(写真)は、図書館、生涯学習・市民活動・青少年活動の支援の4つの機能を備えた複合施設です。

特筆すべきは、多世代対応の滞在型図書館の造形と「ティーンズスタジオ」を中心にした青少年活動支援機能、近隣の5大学と連携した「武蔵野地域自由大学事業」などの生涯学習支援の充実です。このような市民の拠点こそが、鎌倉市役所現在地には相応しい！

### イチ推し！ 食でつながるみんなの居場所

鎌倉市の給食は、地場産や有機食材が積極的に取り入れられ、行政とJAとの連携が進む一方、物価高騰による食材費の値上げや調達の問題があります。給食費を上げざるを得ない自治体もある中で、市は食材費の高騰分は公費でまかなうとしています。保護者の負担増はないものの、さらなる高騰による質の低下への懸念は拭えません。環境と調和のとれた持続可能な食料生産とその消費に配慮した食育の推進が求められます。

また孤立が進む中、小学校区ごとに歩いていける地域の居場所としての地域食堂の取り組みや食料支援の需要が増えました。食でつながる活動が進むことは、地域住民の自治意識や社会参画の意識を高めます。これからも支援のあり方について考え、活動していきます。

